

吉祥寺村

御林

御供所

神木ノ援

平成29年度 第1回企画展

# 井の頭と江戸

平成29年 4月22日土 — 6月18日日

今年、井の頭恩賜公園は開園100周年を迎えることにちなみ、江戸時代の井の頭池とその周辺を、典籍、古文書、絵図、錦絵などから紹介します。

入場無料

背景画像：神田御上水之源多磨郡無礼村井之頭弁才天之略図（『四神地名録』写本、武蔵野市立中央図書館所蔵）  
元禄年中改定図（『新編武蔵風土記稿』巻之八十九、武蔵野市立中央図書館所蔵）  
花しゆんさい（『井の頭紀行』、国立国会図書館ウェブサイト）

武蔵野市立

武蔵野ふるさと歴史館

# 井の頭と江戸

平成29年(2017)、井の頭恩賜公園は開園100周年を迎えます。井の頭公園は東京近郊の緑豊かな憩いの場所として親しまれていますが、井の頭池とその周辺地域の歴史は古く、池の周辺からは旧石器時代の石器や縄文時代の土器や住居跡、室町時代の板碑などが出土しています。この地域の歴史がより明らかになるのは江戸時代からで、井の頭池が江戸の上水の水源となったり、幕府の御林が設けられるなど、特に徳川将軍家や江戸の人々と関わりが深い場所になりました。

本展示では江戸時代の井の頭池とその周辺を、典籍、古文書、絵図、錦絵などから紹介します。武蔵野の歴史に理解を深め、愛着をもっていただけの機会となれば幸いです。

## 展示構成

### 札野、牟礼野と将軍の鷹狩り

現在の武蔵野市域は、江戸時代前期に村が開発されるまで、札野、牟礼野といわれる原野が広がっていたと見られます。牟礼野には鷹狩りを好んだ三代将軍家光は鷹狩りに訪れました。

### 井の頭池と神田上水

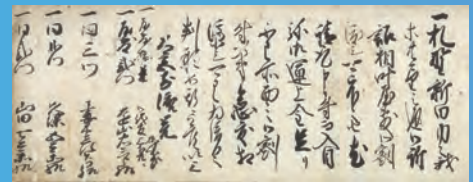
井の頭池を源とする水は、神田上水として江戸に送られました。井の頭池や水をめぐり家康や家光に関わる事跡が伝わります。家康が井の頭池の水を茶の湯に用い茶臼を奉納したこと、親の井や七井の池といわれた名称が家光によって井の頭と命名されたことなどが縁起や古記録に記されています。

### 名所井の頭の池弁財天社

江戸時代中期以降、井の頭弁財天は江戸町人を中心に多くの人からの信仰を集めました。井の頭弁財天の石造物には江戸の歌舞伎役者や町人の名前が刻まれています。また、井の頭池と弁財天は、小金井桜や府中六所宮(現・大國魂神社)などとならんで江戸周辺の名所の一つになりました。

### 井の頭御林

今の井の頭自然文化園一帯は江戸幕府の御林になりました。御林の木材は幕府の用材などになるとともに、下草などは吉祥寺村の肥料に利用されました。御林は明治時代以降も引き継がれ、民間や東京府の管理など紆余曲折を経た後、大正時代に国から東京市に下賜され、大正6年(1917)に井の頭恩賜公園が開園しました。



花しゆんさい(『井の頭紀行』、国立国会図書館ウェブサイト)  
 ①牟礼村矢倉台ヨリ遠望之図(『井の頭紀行』、国立国会図書館ウェブサイト)  
 ②御札野新田村々々々相渡し申覚帳(武蔵野市所蔵井口家文書)

## 関連イベント

### ①講演会「井之頭御林にみる江戸幕府の森林政策」

日時：6月10日(土) 午後2時～4時  
 講師：太田尚宏氏(国文学研究資料館准教授)  
 定員：50名(中学生以上対象)

※講演会参加ご希望の方は、5月28日(日)までに、往復はがき・Eメールにて①お名前 ②ご住所 ③年齢 ④電話番号を明記のうえ歴史館「井の頭」係までお申込みください。または、返信用はがき1枚をご持参のうえ、歴史館事務室までお越しください。定員を超えた場合は抽選となります。詳細は、市報・HPなどをご覧ください。

### ②担当学芸員による展示解説

日時：5月20日(土)・6月4日(日) 午後1時30分～  
 ※各回30分程度、お申込みは不要です。

## 武蔵野市立 武蔵野ふるさと歴史館

開館時間 午前9時30分～午後5時 休館日 金曜・祝日・年末年始  
特別休館日

〒180-0022 武蔵野市境 5-15-5 Tel 0422-53-1811

http://www.city.musashino.lg.jp/shogaigakushu\_koza/rekishikan/

E-mail: rekishikan@city.musashino.lg.jp

武蔵野駅より徒歩12分/ムーバス「武蔵野ふるさと歴史館」バス停下車すぐ/駐車場スペースはございません(高齢者・車椅子ご利用の方はご相談ください)

入場無料

